

21世紀生活圈研究会 試行的調査(檀原地域)

近畿地方整備局
平成20年12月16日

1. 橿原地域の位置づけ

橿原地域の特徴

- ・京阪神大都市圏の通勤圏域
- ・紀伊山地の広大な「緑のヒンターランド」の玄関口
- ・飛鳥・藤原京・今井町等の豊かな歴史文化資産

橿原地域の圏域の設定

橿原市の北西部を中心に大阪市を中心とする京阪神大都市圏との生活基盤、産業構造を含め大きな影響下にあることを踏まえ、**橿原市、明日香村、高取町の1市2町を検討の核**としつつ、これらの周縁に位置する**大和高田市、桜井市、葛城市、御所市、大淀町、吉野町の4市2町を含めた30分圏域を対象**として検討。ただし商圈については南和(奈良県南部)、大阪府を含む広域的な観点から検討。

橿原地域の検討の視点

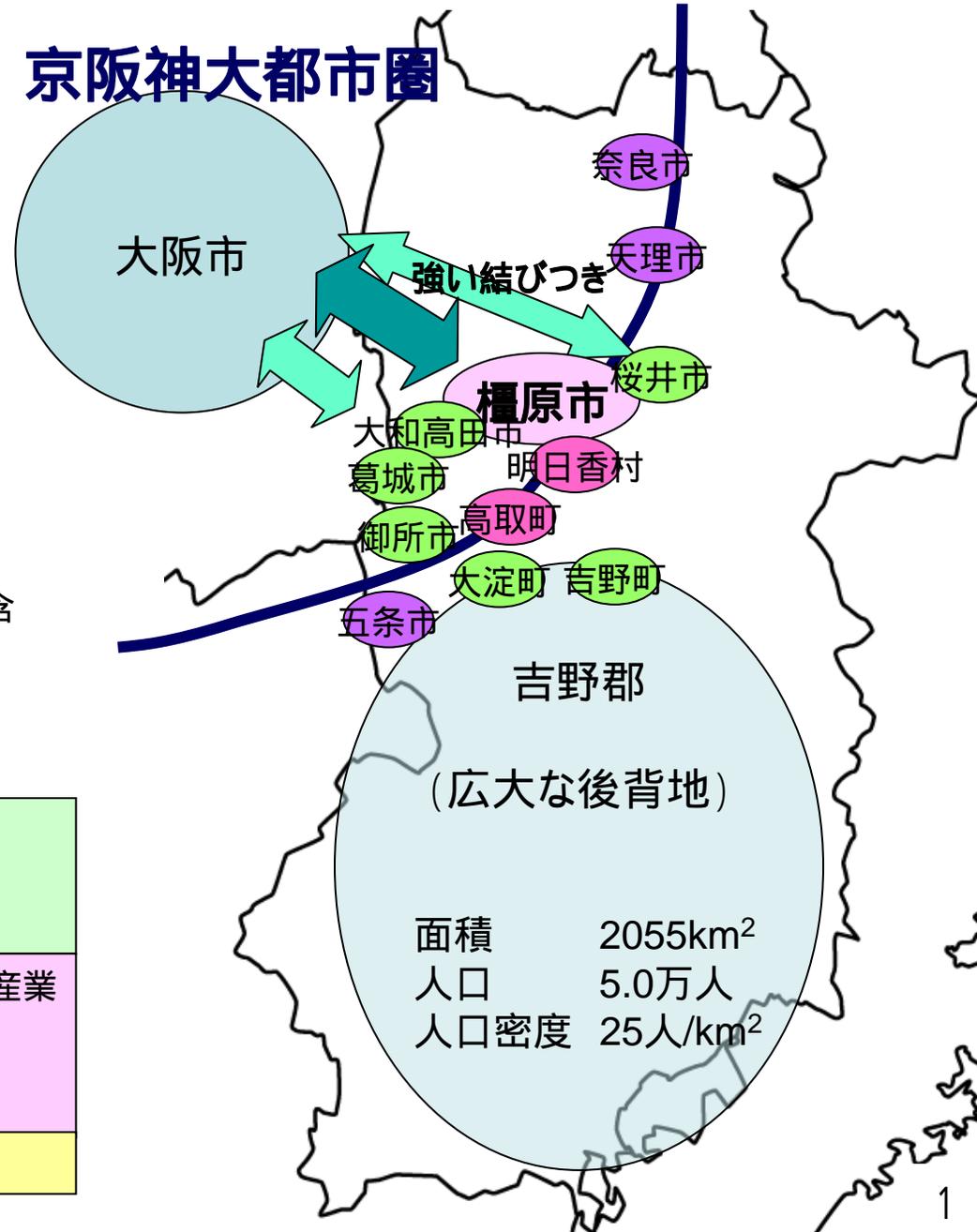
- ・京阪神大都市圏との強い結びつき
- ・大都市圏の周縁地域としての共存共栄
- ・大都市圏中心部からの行楽、体験型農業

・奈良県内東西南北の交通要衝化による物流・産業拠点の核

- ・企業(工業、商業)立地促進のための環境整備
- ・歴史的資源を活かした周辺地域の広域観光化

・橿原市を核とした中南和の生活機能の確保

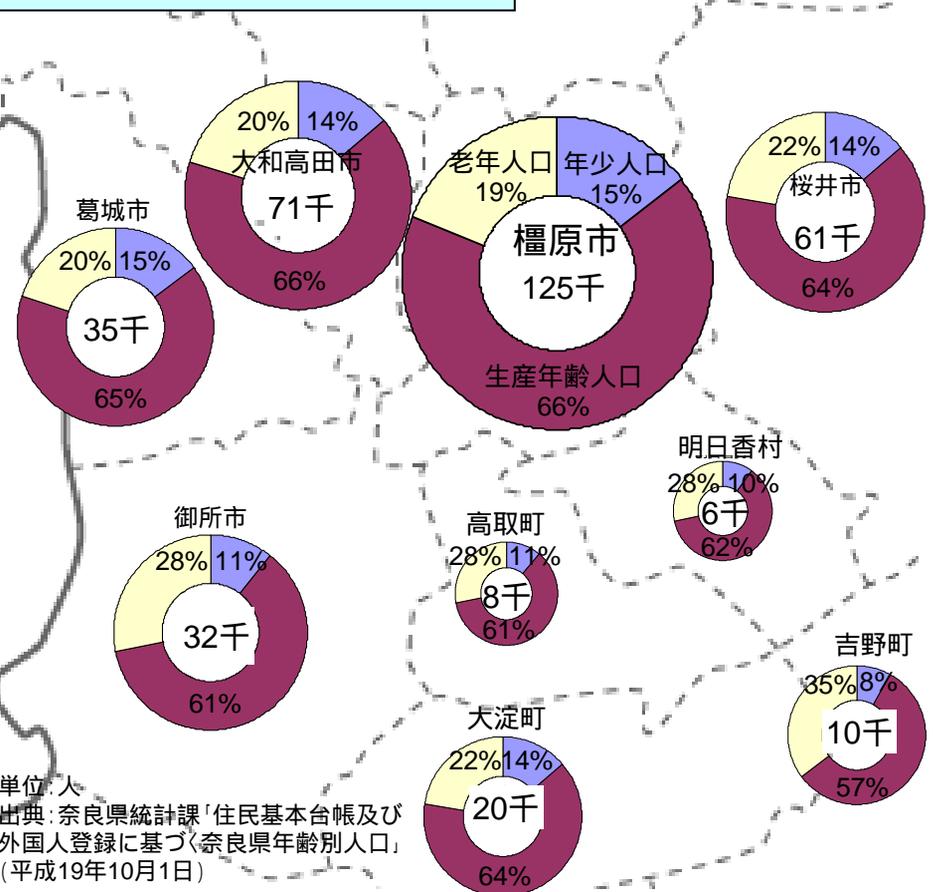
京阪神大都市圏



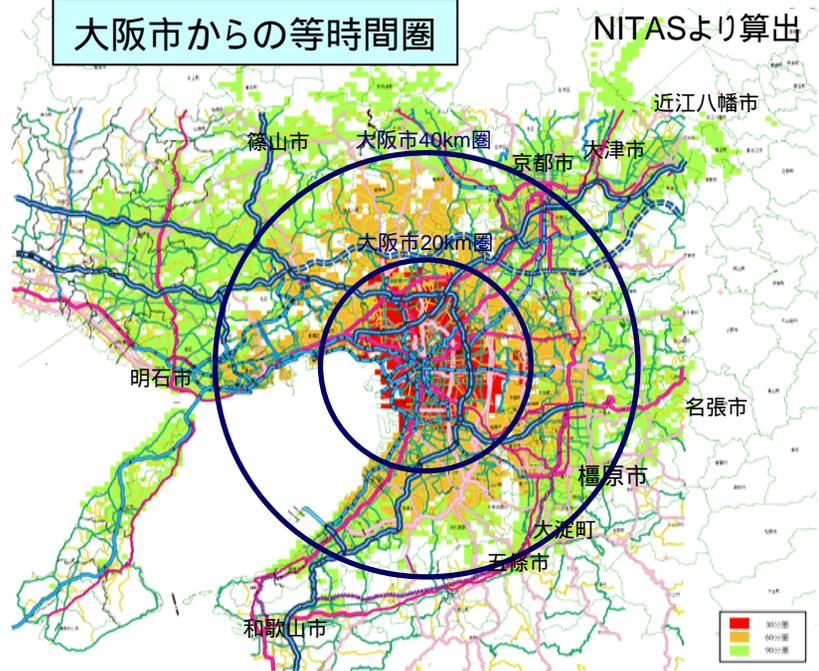
2. 橿原地域の人口・等時間圏

- ・橿原市:12.5万人 橿原+明日香+高取:13.9万人
- ・橿原市の人口は、平成20年前後をピークに減少。
- ・南部ほど人口減少の割合が大きくなる。
- ・京阪神都市圏の通勤圏は実態から概ね90分圏と想定すると、南和では大淀町や五條市までが対象範囲。

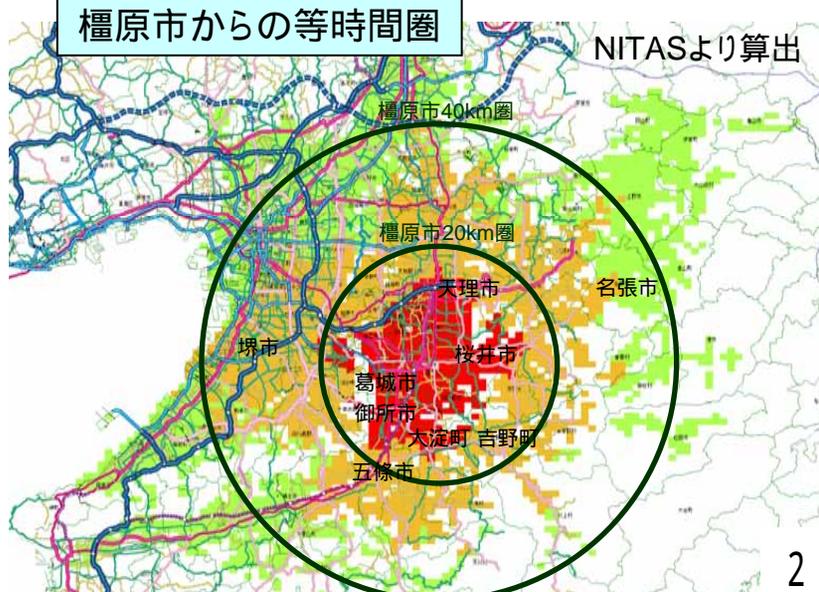
橿原地域の人口とその構成



大阪市からの等時間圏

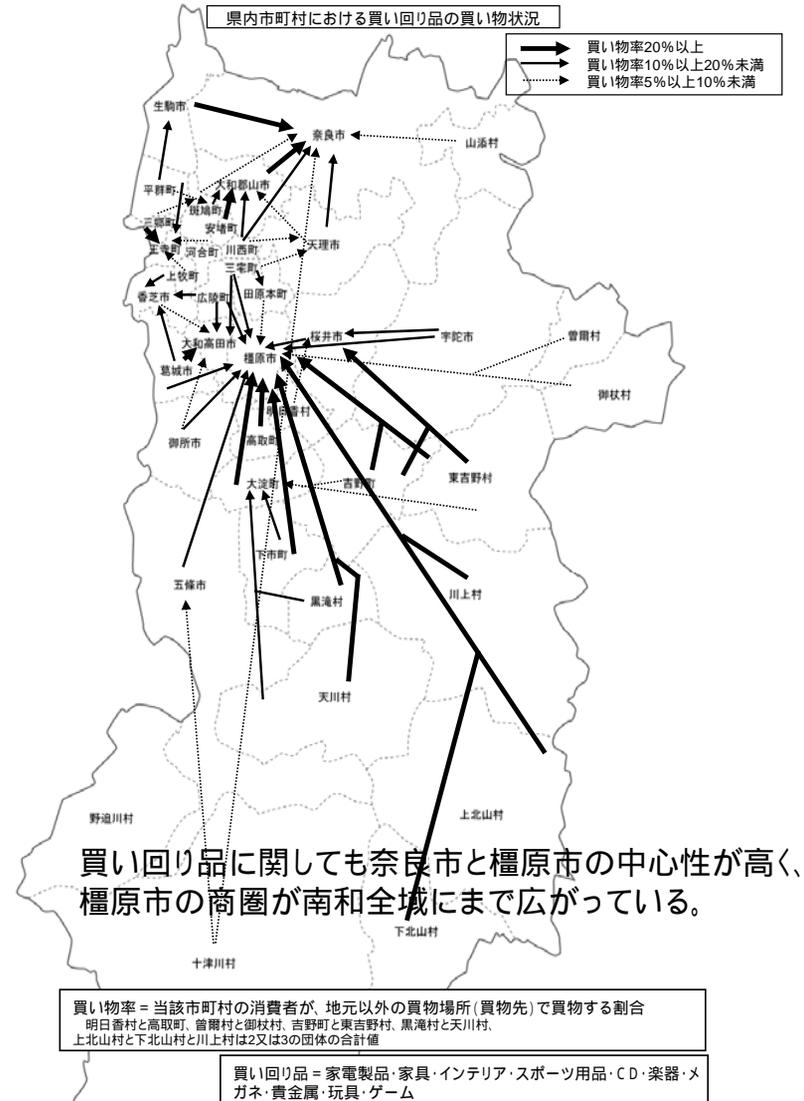
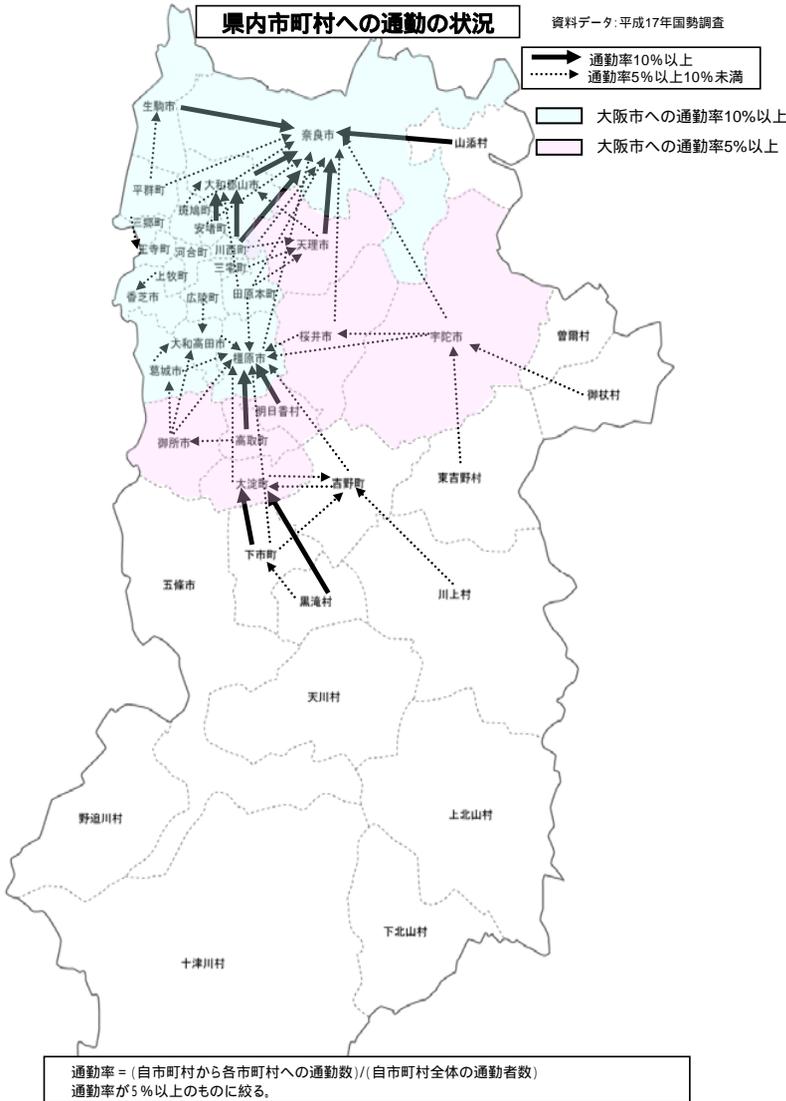


橿原市からの等時間圏



3. 県内における人流構造

・通勤に関しては、県内で見ると奈良市と橿原市の中心性が高いがそれ以上に大阪府内への流動が大きい(県全体で**他県へ通勤する者の割合は29.3%で全国一**)。



4. 橿原地域の商業の現状と課題

- ・中南和における商業機能は**橿原市中心の構造**。
- ・特に大型のショッピングモールがオープンしてから、南阪奈道の整備と相まって大阪府下も商圈を含んだことで橿原市の中心性を強化した一方で、橿原市および周辺市の中心市街地の商店街等への影響大。

【イオンモール橿原アルル】
 2004年4月1日、ダイヤモンドシティ・アルルとしてオープン。
 2008年11月25日に増床オープンし、店舗数は130から244店舗に増大。

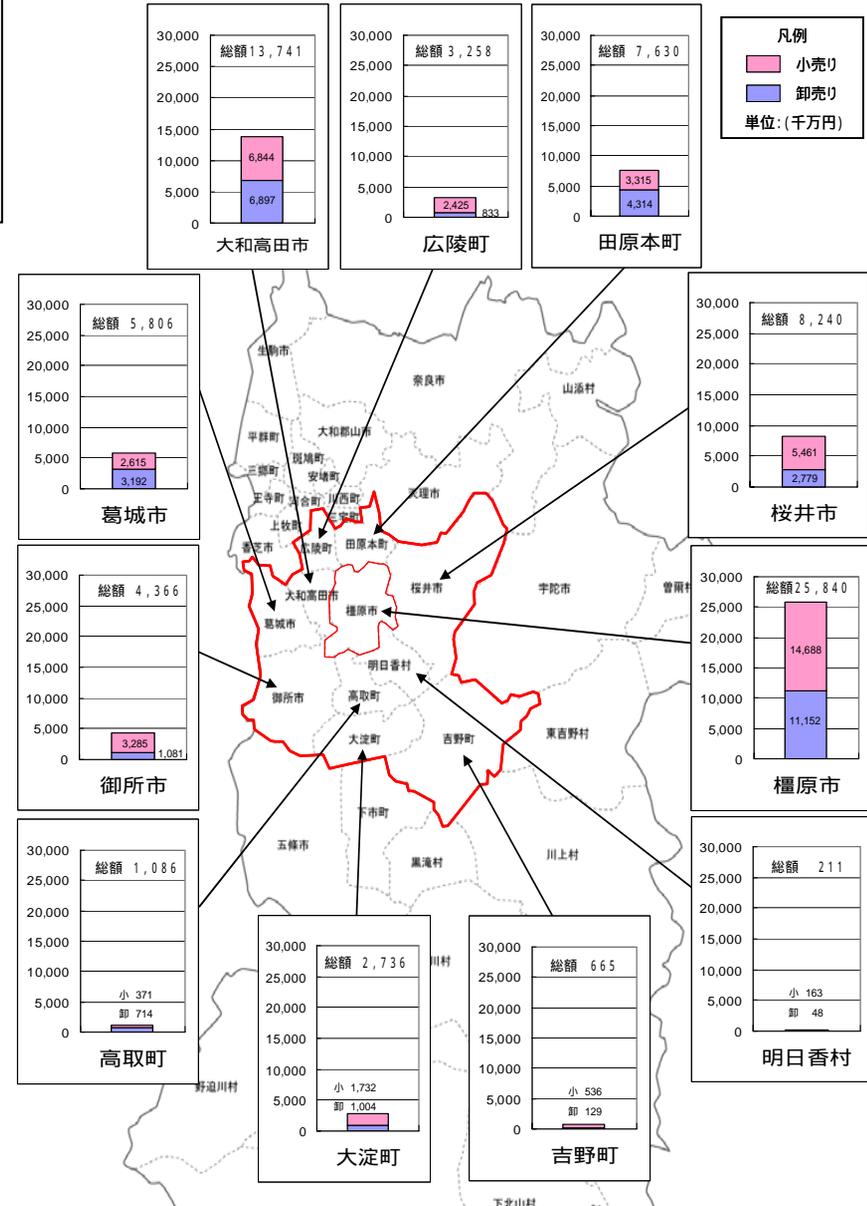


建築延床面積：22.5万m³
 (西日本では阪急西宮ガーデンズ(24.7万m²)に次ぐ規模(全国でも第7位))
 テナント数：244
 駐車台数：5,000台

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

年間商品販売額の状況

資料データ：平成19年度奈良県統計年鑑



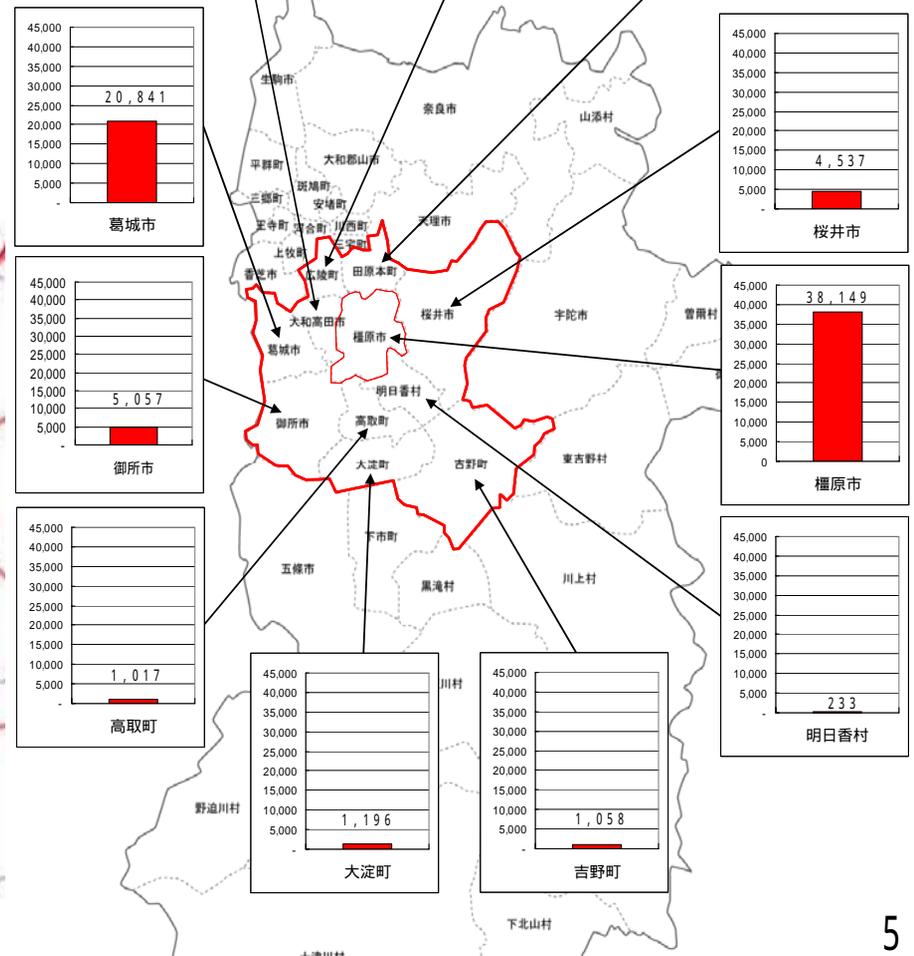
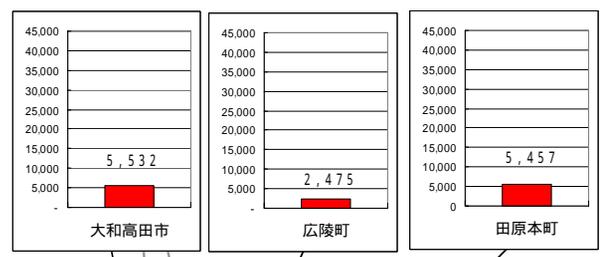
5. 橿原地域の工業の現状と課題

・橿原市の製造品出荷額は電子部品・デバイス製造業を中心にこの数年で倍増し、今後も交通ネットワークの整備による企業立地が見込まれている。また、葛城市の製造品出荷額は県市町村下で3位。

製造品出荷額の状況

資料データ：平成19年度奈良県統計年鑑

単位：(千円)



過去5カ年の製造品出荷額上位5市町村

	1位	2位	3位	4位	5位
H19	大和郡山市(33.6)	橿原市(16.6)	葛城市(8.9)	奈良市(7.2)	天理市(6.2)
H18	大和郡山市(31.0)	橿原市(16.3)	葛城市(8.9)	奈良市(7.8)	天理市(7.4)
H17	大和郡山市(32.7)	橿原市(12.2)	天理市(8.5)	葛城市(8.5)	奈良市(8.1)
H16	大和郡山市(33.5)	橿原市(9.9)	葛城市(9.9)	天理市(9.2)	奈良市(7.9)
H15	大和郡山市(33.6)	葛城市(9.6)	橿原市(8.8)	天理市(8.5)	奈良市(8.3)

出典：平成19年度奈良県工業統計

(万円) 橿原市の製造品出荷額



出典：橿原市第3次総合計画基本構想



【(株)ジェイテクト奈良工場】
 (ベアリング(軸受)製造大手3社の一角)
 主要生産品目：電動パワーステアリング、油圧パワーステアリング、マニュアルステアリング
 社員数：633人



出典：(株)ジェイテクトホームページ

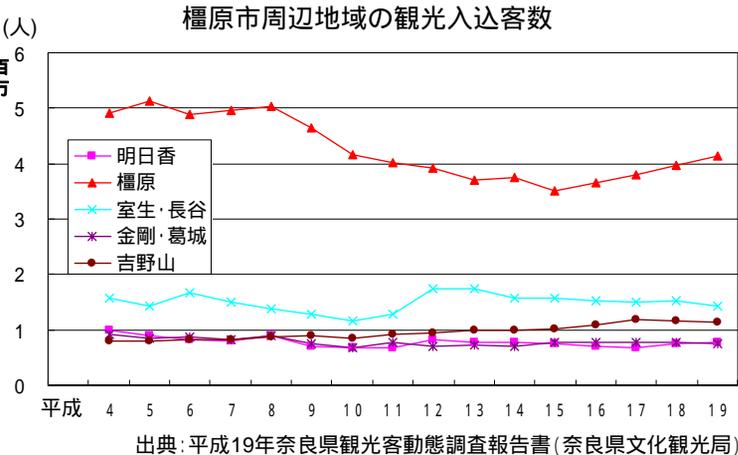
6. 橿原地域の観光の現状と課題

・多くの観光資源を有するにもかかわらず、**公共交通への利便性が低く、周遊型観光の障害**となっており、交通アクセスが良い「橿原」を除き、近年伸び悩んでいる。

・**宿泊施設が極めて少なく、滞在型観光の障害**となっている(都道府県別宿泊客数全国最下位)。奈良県全体の宿泊者数(117万人泊*1)と丹後2市2町(京丹後市、宮津市、伊根町、与謝野町)の宿泊者数(107万人泊*2)が同程度。

*1:平成19年宿泊旅行統計調査(国土交通省) *2:平成19年京都府観光入込客調査(京都府)

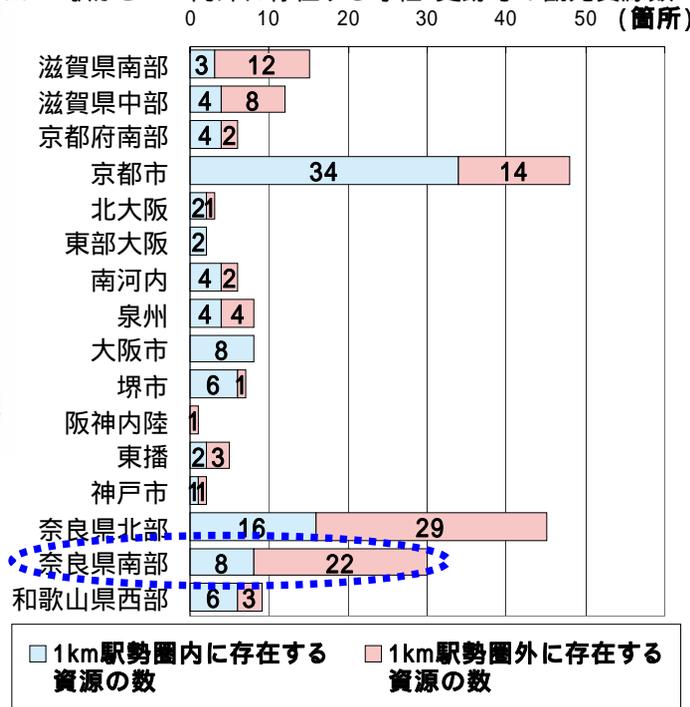
・明日香の歴史的風土を守るには、建造物の景観への配慮だけでなく、**荒廃した非耕作地をいかに減少、改善していく**が大きな課題。



明日香村の歴史的風土が失われた理由



駅から1km内外に存在する寺社・史跡等の観光資源数



奥飛鳥の棚田(明日香村)



国宝・金峯山寺蔵王堂(吉野町)



今井町の町並み(橿原市)



注:世界遺産及び観光資源台帳でSA・Aランク(全国レベル)、Bランク(地方レベル)以上に位置づけられている史跡・社寺・城跡・城郭を計上

7. 橿原地域の農業の現状と課題

- ・明日香村を除いて第1次産業従事者の割合が1割に満たず**産業の規模は総じて小さい**。
- ・零細経営の副業的農家が多く、歴史的遺構など地域固有の事情により圃場整備が進んでいない、**耕作放棄地、遊休地の割合が周辺府県と比較しても高いこと**などの課題を抱えている。
- ・明日香村では「飛鳥のうまいもん」の販売促進として、あすか夢販売所、夢市・夢市茶屋を設置し、近年大きく売り上げを伸ばしている。

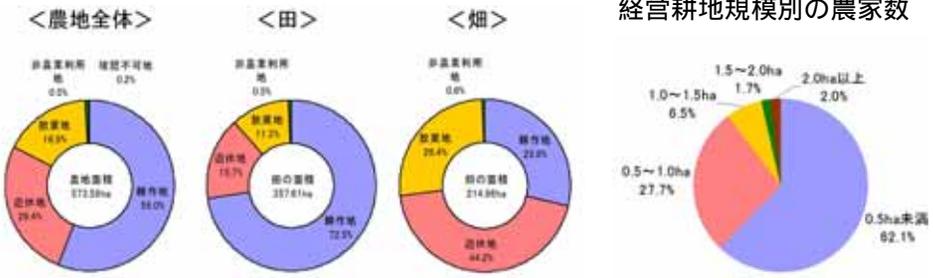
農業産出額の状況

出典：平成19年度奈良県統計年鑑



明日香村の地目別の農地利用状況

明日香村の経営耕地規模別の農家数



あすか夢販売所

あすか夢販売所・夢市・夢市茶屋の売上額の推移



出典：第4次明日香村総合計画検討資料

橿原地域の課題の整理

SWOT分析(試案)

強み

中南和最大規模の都市
中南和唯一の第3次救急医療機関
 京阪神大都市圏の圏域内
 今井町、藤原京などの観光資源
 飛鳥、吉野などの観光資源

弱み

スプロール化した市街地周辺地域
県外就業率が高く基幹産業が脆弱
 観光客数の激しい季節変動
 宿泊施設の著しい不足
 吉野郡部などの過疎化の進展

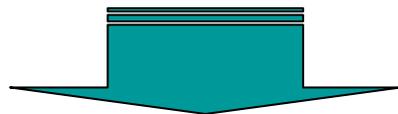
機会

京奈和道の整備による物流機能、利便性の強化
 国際観光の高まり
 歴史まちづくり法の活用による
 景観形成

脅威

ニュータウンの高齢化と空き家の増加
 吉野郡部などの深刻な人口減少、高齢化
 周辺地域の財政状況の悪化
 耕作放棄地の荒廃による観光資源の魅力の減退

橿原市内の特徴
 橿原以南の特徴



【橿原地域が目指すべき姿】

- ・ **中南和の一大物流・配送拠点、産業拠点の核**
- ・ **橿原市を核とした南和の生活機能の確保**

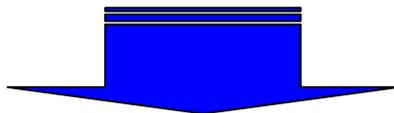


【橿原地域が目指すべき姿】**・中南和の一大物流・配送拠点、産業拠点の核**

京奈和道の整備により橿原市は奈良県内における東西南北の結節としての優位性を飛躍的に高まる。物流・配送や産業の拠点となるべく、他の競争力の高い地域と互角以上に渡り合うために必要な条件、施策を検討。

・橿原市を核とした南和の生活機能の確保

橿原市より南部の市町村では今後急激な人口減少が見込まれ、生活機能(医療・福祉・教育・小売・交通・産業)の維持が困難となることが予測される。相対的に大きな人口減少には襲われない橿原市を核としつつ、遍く生活機能の確保に向けた施策を検討。



京奈和道等の高規格道路の整備等が進めば、工場の立地が進み、物流・配送拠点も充実・強化されるのではないかと？

- ・現在の橿原地域の物流量と流れの状況
- ・現在の橿原地域の製造・加工品の出荷状況
- ・他の競争力の高い地域と互角以上に渡り合うために必要な条件

市町間の連携により、生活機能の役割分担とネットワーク化が進めば、圏域のほぼ全域にわたり必要な生活機能が確保できるのではないかと？

- ・現在の生活機能の立地と利用状況
- ・役割分担とネットワーク化によるサービスの維持・向上の見込み